

東濃地域で栽培されているエゴマ品種系統の特性と最適な作期

【要約】東濃地域で栽培されているエゴマ2系統は、子実収量や油脂含有量が「飛系アルプス1号」とほぼ同等である。2系統は成熟期が異なるが、5月中下旬に播種し6月中下旬に移植した場合に子実収量が最も多くなり、4月以前又は6月以降の播種は減収する。

中山間農業研究所・中津川支所

【連絡先】0573-72-2711

【背景・ねらい】

東濃地域では古くからエゴマが栽培されてきたが、伝統的な品種系統や栽培技術は継承されていない。近年、新たに作付が広がりつつあり、すでに複数系統が導入されているものの、各系統の地域適性や適正な作期については検証されていないため、東濃地域で栽培されているエゴマ2系統について特性や作期の評価を行う。

【成果の内容・特徴】

- 1 白川栽培種・中野方栽培種の2系統を中津川支所（標高390m）において栽培した結果、子実収量や油脂含有量について、「飛系アルプス1号」とほぼ同等であり（ $\alpha < 0.05$ 、図1）、2系統の東濃地域における栽培適性は高い。
- 2 播種・移植時期にかかわらず、品種系統によって開花・成熟期はほぼ一定であり、成熟期は中野方栽培種で10月上旬、白川栽培種は10月中旬である（表1）。
- 3 白川及び中野方栽培種は、5月中下旬に播種し、6月中下旬に移植した場合に子実収量が最も多くなる。4月以前又は6月以降の播種は減収する（図2）。

【成果の活用・留意点】

- 1 東濃地域のうち、特に恵那地域における成果の活用が期待できる。
- 2 成熟期の異なる供試2品種系統を作付することで、収穫時期の分散が可能となる。
- 3 適正な播種・移植期を選択することにより、収量の確保に繋がる。

【具体的データ】

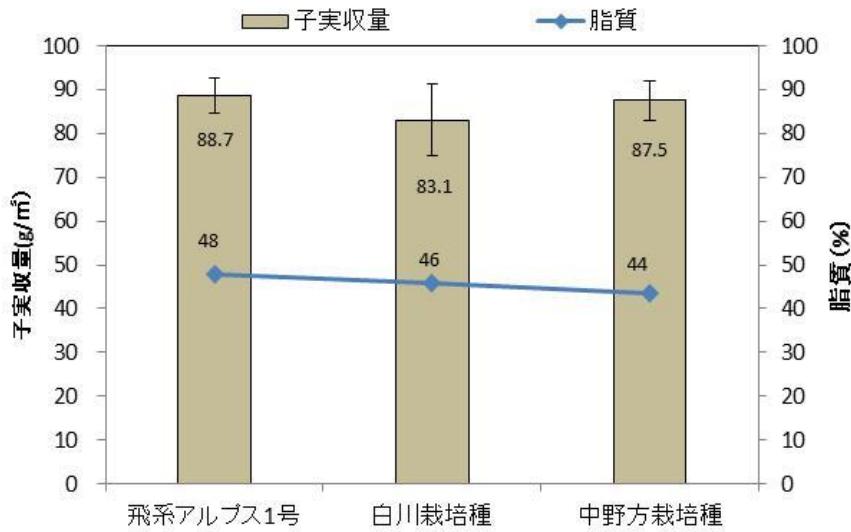


図1 子実収量及び脂質

(6/1 播種 : n=3, 平成 28 年)

- ・飛系アルプス1号：飛騨地域の在来種から選抜された登録品種。
- ・白川栽培種：飛騨地域の黒種（日本エゴマ普及協会より提供）。加茂郡白川町下佐見周辺で自家採取し、20 年程度栽培。
- ・中野方栽培種：福島県田村市周辺の在来品種（日本エゴマの会より購入）。恵那市中野方町で数年、自家採種。子実は白種。

表1 開花日及び成熟日（平成 28 年）

品種・系統	播種日	移植日	開花日 <sup>注1)</sup>		成熟日 <sup>注2)</sup>	開花開始から成熟日まで
			開始日	満開日		
白川栽培種	4/25	5/25	9/15	9/21	10/17	31日
	5/11	6/15	9/15	9/23	10/17	31日
	6/1	6/27	9/17	9/24	10/17	29日
中野方栽培種	4/25	5/25	9/7	9/15	10/6	28日
	5/11	6/15	9/7	9/15	10/7	29日
	6/1	6/27	9/8	9/16	10/8	29日

注1) 開始日：開花の初見日、満開日：およそ75-100%の花序が開花  
 注2) 成熟日：大半の個体の葉が黄化し、落葉を開始した日とする。

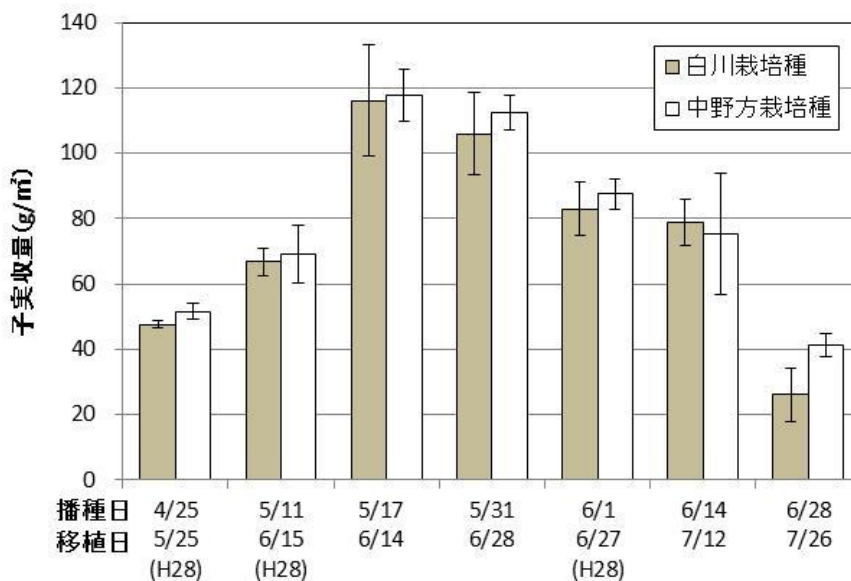


図2 作期と子実収量の関係 (n=3, 平成 28 年及び 29 年)

※(H28)は平成 28 年度、それ以外は平成 29 年度のデータであることを表す。

研究課題名：飛騨エゴマの機能性に特化した新商品開発と総合技術開発（平成 28～32 年度）

研究担当者：大江栄三